

保育制度の拡充を 県福祉保育労が松江市に申し入れ

全国福祉保育労働組合島根支部（藤本愛美委員長）が、8月21日、松江市に保育制度を拡充するよう申し入れ、保育士、栄養士、看護師など7名



池田次長に要望書を渡す
藤本執行委員長と保育士の皆さん

が、松江市こども政策課（池田課長）、保育所幼稚園課（松浦課長）、発達相談支援センター（中島所長）ら9名と懇談しました。

保育士らは「国の配置基準では、困難を抱える子どもが増える中で十分な保育を行うことができない」「多発する災害時に子どもの命を守るか危険を感じている」「低賃金で保育料の負担ものしかかか。国や松江市は、産んでほしい子育てしてほしいと本当の子の保育所入所について120時間以上勤務の者だけ点

数加算がある。保育士同様全ての調理師も保育所になくしてほしくない」と訴え、保育制度の充実に向け賃金底上げ、発達促進児補助金拡充、調理員の配置基準改善、こと

も誰でも通園制度をやめること、原発災害時の対応など9項目を要望しました。

松浦課長は「切実な声は理解する」、池田課長は「引き続き市長会などを通じて国に要望する」、中島所長は「職員を増員し、すみやかな対応に向け改善を図っている」と応じました。

東出雲町意宇東地区など 水害対策 治水計画について 市河川課招き説明会 党東出雲支部

8月19日、日本共産党東出雲支部は、東出雲公民館ヨリアイーナにて「錦新町意宇東地域の治水」について、市民説明会を開催しました。

東出雲支部は2021年7月豪雨以降、治水対策について要望をとりまとめ、市や県に要望や担当課と懇談を行う活動を続けてきました。

今般、要望してきた錦新町地域の治水について西部承水路にポンプを増設する計画が発表になりました。実施計画を今年度から2年かけて行う

というところで、要望してきた地域の方々も招き、市民説明会を開催しました。

松江市都市整備部河川課から永田調整官が参加し説明しました。計画としては西部承水路の他に、雨水管渠整備、

中海の潮位に対応する水門の自動化などを計画していると説明がありました。実現には5年から10年かかるのではな

いかと説明がありました。私たちは抜本的に防災減災に回し、全国的に事故が多発して



挨拶するたちばな市議と市河川課永田調整官

いる管路の更新や、防災計画の推進に力を注ぐ必要がある。国への要望も行ってほしい」と発言しました。

参加者からはその他の地域要望も出され、防災減災へ地域からいっそう声をあげていこうと感想が出されました。

核兵器なくすピースチャレンジャーに 原水禁大会2025報告会開催

原水爆禁止島根県協議会は9月13日に島根県民会館で原水爆禁止2025世界大会報告会を開催しました。

原水爆禁止世界大会は8月3日から6日までの4日間広島市でその後9日まで長崎市で開催されました。

3日と4日に行われた国際会議に参加した県事務局長の徳永和洋氏は、世界大会国際会議宣言「被爆80年いまこそ決断と行動を」、「広島からのよびかけ」をもとに報告し、「核兵器禁止条約は、核の使用の危険がせまる世界の中の希望」と多くの参加者が核兵器禁止条約の重要性を強調したことを報告しました。

また新日本婦人の会舟木事務局局長は、次世代会員を大会派遣したことを報告し、出雲支部高橋さんの長崎大会参加報告を代読しました。

また相次ぐ戦争や武力行使、力による国益追及は許してはならないとして、パレスチナ国家の創設を認めること、ガザでのジェノサイドを一刻も早く停止させること、膨大な軍事費の増をくいとめることが重要と話し合われたことなどの報告がありました。

その後島根県内各地での夏行われた平和の波行動の報告があり、事務局の小林京子氏が市内の平和の波行動について報告し、学童のこともたちを対象に行った平和まつりに80名を超える参加があったなどの取組を紹介しました。



報告する徳永事務局長

徳永氏から、ひかわ医療生協が行ったひかわ図書館での「平和のバトンひかわ」の取組について、映画上映、絵本の朗読、語り部活動、原爆の絵展に465名が参加したと報告がありました。

隊基地計画について鹿児島出身の市民グループから現状の報告と生態系守れなどの訴え、自作の歌の披露がありました。



報告を聞く参加者の皆さん



報告する たちばな市議



歌で馬毛島守れと訴える市民グループのみなさん